

# Essay

Sapiarc.com

2012年12月21日(2012-14)

## 我慢の配分

12月19日(水)の朝日新聞朝刊には、良い記事が多かった。とくに、1面の評論「政権再交代(中) 高度成長の幻を追うな」(編集委員 原真人)、16面の社説「補正予算 またも公共事業頼みか」は、26日に発足する予定の安倍政権の経済財政政策「アベノミクス」と「補正予算」の問題点を的確に指摘したものだ。ただし、あとで書くが、新しいことが書かかれているわけではない。

1面の評論「高度成長の幻を追うな」の要点は次のようだ。

『財政と金融の両面でお金をばらまこうという「アベノミクス」は、短期の相場を考える金融市場の人々には心地よく響くが、日本の将来にとっては危うい路線である。量的緩和政策はデフレ解消や成長促進への効果が薄く、副作用が大きい。それがこの10年日本銀行が試みを重ねた末に学んだ答えである。にもかかわらず安倍氏はデフレ脱却のために「輪転機をぐるぐる回してお札を刷る」よう求めている。このうえ際限なくお金をばらまけばどうなるか。経済は好転せず人々の給料が上がらないまま、金利や物価だけが上昇しかねない。その先はギリシヤのような危機連鎖が待っている。(中略) 希望を見いださねばならないのは、別の視点だ。全体では低成長でも、日本の働く世代1人当たりの実質国内総生産(GDP)はリーマン・ショック前と今と比べ米欧より伸びが高い。規制改革などを通じてこうして一人一人が生み出す価値を増やす努力を続ければ、人口減少下でも、年金や医療で持続可能な社会を設計する道は生

まれる。新政権がアベノミクスに捉われ続けるなら、持続可能な社会の実現はさらに遠ざかるだけだ。そうなれば、私たちは遠回りのコストをまた負担させられることになる。』

16面の社説「補正予算 またも公共事業頼みか」の要点は次のようだ。

『衆院選での大勝を受けて連立政権を発足させる自民、公明両党が、大型の補正予算の編成で一致した。柱は公共事業の積み増しだ。総選挙の公約として、自民党は「国土強靱化」を、公明党は「防災・減災ニューディール」を掲げていた。(中略) 公共事業の積み増しで、景気は一定期間、押し上げられる。しかし、規制緩和などの活性化策を欠いたままでは長続きしない。これまでの数々の失敗を通して得た教訓である。』

これらの論旨は新しいことではなく、過去20年間の日本の経済財政の状況に少しでも関心を持ってきた人たちには常識だと言って良いことばかりだ。それを、この時点で、また大新聞が書かなければならないというところに、日本の問題点が集約されていると思う。

3年前の自公から民主への政権交代以前の自民党では、少なくとも財政のプライマリーバランスを回復することを決めていたはずだ。私が理解している範囲では、プライマリーバランスとは、国債を償還する額を超えない範囲でだけ新しい国債を発行するというものだ。したがって、国債の総額は少なくとも増えることはない。これは財政再建の第一歩となるものだ。安倍氏

らは、この点については黙っている。政治家というものは本当に忘れっぽいのか、平気で忘れた振りをする人種なのだろう。

「国土強靱化」，「防災・減災ニューディール」などという新しそくに聞こえる言葉を持ち出して、実際にはこれまでどおりの公共事業をしようとするのは、ごまかしに過ぎない。10兆円もの補正予算を組んでも、経済の基本が容易に改善しないことは、直ぐに明らかになるだろう。これまで、ばらまけばばらまくほど、経済の体質はむしろ弱くなってきたのだ。簡単にもらったお金は、生きないことに使われやすいのだ。インフレ率を2%に設定するというのも、物価の上昇に困る人が増えるだけになってしまうのではないか。

これも少し前の朝日新聞で読んだことだが、「右肩上がりの時代の政府の仕事は利益の配分だったが、これからの政府の仕事は我慢の配分だ」と誰かが言ったそうだ。まったくそのとおりだと思う。しかし、安倍政権がしようとしていることは、右肩上がりの時代のものと変わらない。その結果、政府の借金は更に膨大なものとなって、私たちにのしかかることになる。悪くすると、将来日本は今のギリシャのようになるだろう。日本政府の借金はギリシャ政府の借金よりも桁違いに大きい。しかも、ギリシャは結局ドイツをはじめとするヨーロッパ諸国が助けてくれるだろうが、日本には助けてくれる国がないのだ。

昔の日本人には、何でも我慢するのは当たり前のことだった。それを連続テレビ小説にしたのが、NHKが昭和58年（1983年）に放映した「おしん」だった。しかし、今の人たちは我慢することができなくなっている。文句を言うと、何とかしてもらえろという習慣がついたのだろうか。来年の春闘では、経営者側は、これまで聖域とされてきた定期昇給すら凍結または延期することもあり得ると言い出している。企業にもよるが、そうもしないと、雇用そのものを確保できなくなるというのが経営者側の言い分だ。これが、どこまで本当かは分からない面もあるが、大赤字を出している企業が多くなって

いることは事実で、平均的に見ても利益は減っている。

このような状況を打開するには、まずは日本人全体が我慢することが必要だと思う。そういう状況でこそ、頭も体も本当に動くようになり、状況を打開する手立ても自然と見えてくるのではないだろうか。マクロに見れば、歴史はそういう形で動いてきたと思う。苦勞することにも喜びを見出すことはできるのが人生というものだ。そう思って、新しい年を迎えたいと思う。（おわり）